

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (9/7~9/15)

植物友の会作品展

◇展示温室 (9/7~9/26)

薬用植物展

カリガネソウ (シソ科)

東アジア原産の多年草。虫が花にとまる際、背中に花粉をつけ、次の花へ受粉するおもしろい仕組みになっています。紫色の清楚な花で、帆掛船に見立てて、別名は帆掛草(ほかけそう)。

トゲオニソテツ

(ザミア科)

南アフリカ原産。雌雄異株。手前の雌株にはラグビーボール状の鮮やかな朱色の雌球果が付いています。奥の雄株には雄球果が付いています。

ゴレンシ

(カタバミ科)

東南アジア原産で、果樹として栽培されています。現在、ピンクの花と若い緑の果実の両方が見られます。果実を輪切りにすると星形になるのでスターフルーツとも呼ばれています。

オーストラリアバオバブ

(アオイ科)

大温室のシンボルツリー、バオバブの花が初めて咲きました。生育期に入り、枝葉が青々と茂り、つぼみもいくつかついています。

ホウキグサ (ヒユ科)

緑色のボールのようですが、秋が深まるにつれて赤く紅葉します。和名のホウキグサは、昔この茎を乾燥させてほうきを作ったことにちなみます。別名ホウキギ、コキアともいいます。

ツキミソウ (アカバナ科)

メキシコ原産の植物で江戸時代にマツヨイグサ等と一緒に観賞用として導入されました。夕方から白い花を咲かせ、朝にはピンク色になり、しばむ一夜花です。適応性が弱く、野生では見られないため、野生化してよく見られるオオマツヨイグサ等がツキミソウと勘違いされていることがよくあります。

ヨルガオ (ヒルガオ科)

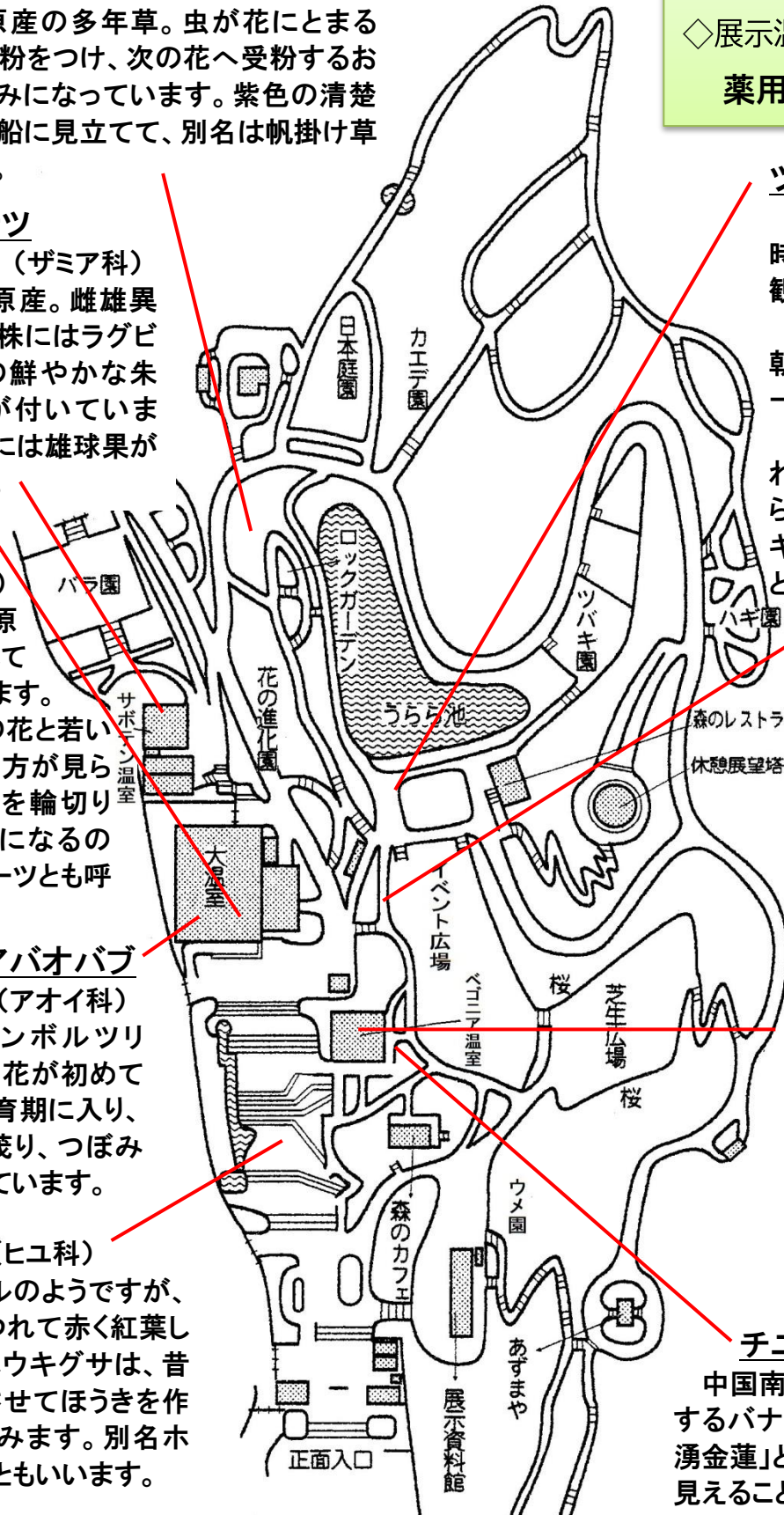
夕顔(ユウガオ)の名前で販売されることもあります。かんぴょうの原料であるウリ科のユウガオと同名なので、しばしば混同されています。夕方から咲きはじめ、スズメガのなかまが受粉する虫媒花です。

シュクシャ (ショウガ科)

切り花、花壇用に栽培される半耐寒性の多年草です。この仲間は、インドを中心に世界におよそ50種が知られています。花が美しい種類も多く、奥には淡鮭肉色の花をつけるニクイロシュクシャが咲いています。

チュウキンレン (バショウ科)

中国南部からインドシナ半島に自生するバナナの仲間です。中国では「地湧金蓮」と書き、地から湧いた金の蓮に見えることから名付けられました。



✿毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿

✿毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿